



目次

生産現場情報：	農業で地域の人をつなぎ、活性化を目指す～株式会社アグリほんだ～	P 1～2
営農支援情報：	主要花卉の現状と栽培ポイント	P 3～5
ご 紹 介：	①農業用ドローンによる水稻種子散播実演会	P 6～7
	②「令和4年度」A園芸担当部課長会議」を開催！	P 7
	③「無煙炭化器」の実演会を開催	P 8
	④ザルビオフィールドマネージャーを活用した可変施肥実証	P 9～10
	⑤秋田大学学生支援としての県産農畜産物贈呈式	P11
お 知 ら せ：	①第33回秋田県「A農業機械大展示会	P12
	②第33代ミス・フレッシュ秋田県産青果物キャンペーンガール決定！	P13

農業で地域の人をつなぎ、活性化を目指す～株式会社アグリほんだ～

1. 法人設立の経緯

「株式会社 アグリほんだ」は、秋田県北西部の世界自然遺産「白神山地」と日本海に接する八峰町峰浜地区で、主に水稻とネギを中心に複合経営を営む法人です。

会社設立の経緯は、一緒に農業経営を行ってきた両親が高齢となり世代交代が必要だったことや、地域で農業の担い手が少なく、地域農業の衰退が危惧されたこともあります。行政とJAがすすめるメガ団地等大規模園芸拠点育成事業（以下、メガ団地事業）に魅力を感じて会社を設立しました。

代表自身も年齢が若いことから、農業の担い手不足を少しでも改善できるよう会社を立ち上げ、会社の仲間、従業員とともに地域の活性化を図りたいと考えてスタートしました。

設 立：令和2年1月

代 表：代表取締役 本多将紀

所在地：八峰町峰浜内荒巻字家ノ上9-3

従業員：5名（役員1名：従業員4名）

臨時雇用：10名（うち5名は農福連携により雇用）



秋田県が育成したネギ春どり品種「秋田はるっこ」の生育を確認する 本多将紀代表取締役

2. 経営の概要等

令和4年の経営規模は、水稻18ha（品種：あきたこまち）、ネギ5.5haとなっています。特に水稻は、昨年から今年にかけて周辺農家からの委託面積が急激に増え、今後も増加が見込まれることから今年の秋までにミニライスセンター建設を予定しています。

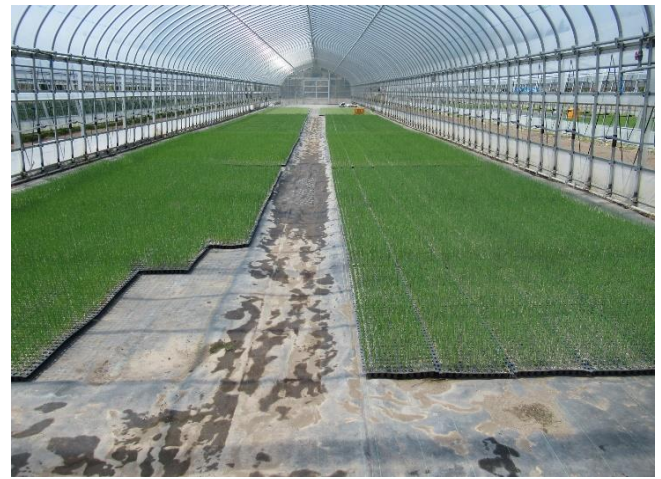
ネギは、メガ団地事業のネットワーク型団地としてJA秋田やまもと管内の他の2法人と一緒に令和2年度から整備が進められ、令和3年度に4haの作付けとなりました。今年は昨年より作付面積が約1.5ha増加し計画的に拡大が進んでいます。栽培は作型の分散を図って夏ネギから秋冬ネギの体系で取り組み、出荷は7月中旬から翌年1月中旬まで続きます。

雇用の特徴として、県地域振興局からの紹介で農福連携に取り組み、作業員の半数を近くの施設から臨時雇用しています。作業員は主にネギの結束作業や、箱詰め作業を担当しています。本多代表は「いつも真面目に作業に取り組んでいることから、今後も継続して雇用していきたい。また、作型の分散を図ることで出荷をできるだけ長く続け、雇用の安定化を図りたい」と話していました。

ネギの出荷は生食用向けの段ボール出荷と加工・業務用向けのコンテナ出荷を行っていますが、昨年は例年より単価安が続いたことから売上額では厳しい年となりました。販売で厳しい年もあるものの、「消費者に品質の良いものを届けて喜んでもらうことをモットーに今年も頑張りたい」と前向きに話していました。



ネギの播種作業



播種時期をずらしながら行われるネギの育苗

3. 今後に向けて

当面の目標は、水稻40ha、ネギ6haまで規模を拡大することです。ネギは、単収向上と品質向上（A品率向上）が所得向上に直接結びつくので、今後も栽培技術の向上に努めていきます。また、昨年、農業用ドローンと水稻除草剤散布ラジコンボートの導入を行ったことで、省力化につながりました。現在、農業用ドローンは利用範囲が拡大していて、水稻防除にとどまらずネギの防除作業にも活用できることから、今後も一層活用していくほか、効果を見極めて請負防除の拡大も検討していきます。

本多さんは「会社を設立してまだ日が浅いので、まずは経営の安定化を目指して努力したい。その上で他の会社と連携を図り、農業で地域の人とのつながりを進めながら地域活性化を目指していきたい」と話していました。

◆主要花卉の現状と栽培ポイント◆

今月は、梅雨入りとなります。この時期は豪雨なども予想されますので、あらかじめ明渠（めいきょ）を掘るなど気象災害に万全な対策を講じてください。降雨後は、病害が発生しやすくなりますので、必ず薬剤散布による防除を行いましょう。年によっては空梅雨となり、好天続きで害虫の発生が多くなることもあります。日頃の観察を怠らず、適期作業による高品質生産を心がけることが大切です。また、この時期は真夏のような気温が続くことがあり、降雨の少ない日が多い場合は、圃場に灌水するなど臨機応変に対応してください。

【露地ギク】：キクは、本県花卉生産の販売額第一位品目で、全体の約4割を占めています。

■摘芯した株から3～6本のわき芽が伸びていますので、そのわき芽が輪ギクで3本、小ギクで4～5本となるように整枝します。勢いが強い枝や弱い枝を付け根からかき取り、平均的な枝を残すのがポイントです。定植が遅れたところや側枝の伸びが悪い圃場では液肥や灌水を積極的に行い、ボリュームアップと初期生育の確保に努めてください。

■梅雨時期は「白さび病」の発生に注意が必要です。整枝が遅れ、枝や葉が込み合うと発生を助長しますので、適期作業に努めてください。薬剤散布は1週間間隔で、予防剤を主体に発生を確認したら治療剤に切り替え、被害の拡大を防ぎます。また、ハモグリバエ、アブラムシ、ミドリカスミカメムシ、キクスイカミキリムシ等も発生する時期です。薬剤散布の際は殺虫剤も混用してください。



◎薬剤散布は、できるだけ午前中の涼しい時間帯に行い、周囲の農作物への飛散防止に十分注意しましょう！

【トルコギキョウ（8月出荷作型）】：県南・中央地区で多く栽培され、9月～10月出荷の抑制栽培が主流となっています。

■草丈が15～20cmになるとチップバーンや茎折れの発生が多くなります。これらの障害は、多肥栽培や軟弱な株ほど発生しやすいため換気を図り、灌水過多にならないよう土壌水管理に注意してください。また、チップバーンの発生が多い品種や樹勢が強くなりすぎた場合は、定植後1カ月頃から出蕾期にかけて、カルシウム質資材を10日間隔で3～4回散布し予防しましょう。

■出蕾後の主枝中心花の摘蕾は、蕾が小豆大になったら行ってください。摘蕾が遅れると蕾に栄養が取られ花蕾のバランスが悪くなるため、摘蕾する蕾の大きさが3cm以内の時期まで実施してください。

【リンドウ】：平成14年に作付けが始まって以降、水田転作に適した品目として中央・県南地区中心に飛躍的に面積が拡大し、平成30年度の販売額は5億円を突破し、全国2位の品目となっています。

■6月は、茎の曲りが発生しやすい時期なので、ネット上げはしっかりと行ってください。1番下のネットは草丈の半分の位置、最上級のネットは草丈の8割までの位置とし、2段目のネットが最上段と最下段の中間の位置になるように調整します。ネット上げの際にネットから茎がはみ出る場合があるので、ネット上げが終わったらはみ出た茎をネットの中に入れ込みます。
この時、茎をおらないように注意してください。



■病害では「葉枯病」に加え、6月下旬から「褐斑病」が発生しやすくなります。6月下旬～7月下旬までの時期にストロビーフロアブルと「葉枯病」と同時防除できるダコニール1000を用いて防除してください。

【シンテッポウユリ】：露地水田転作できる種子系のユリで、主に鹿角市と横手市で栽培されています。

■梅雨期は、「葉枯病」の発生が多くなる時期です。薬剤散布は新葉の展開速度に合わせて7～10日に1回としますが、降雨によって「葉枯病」の発生が助長されますので、降雨後は必ず散布してください。株全体に薬剤が十分かかるように行ってください。

■ネットの引き上げ時期が遅れると、曲りの発生につながるなので、こまめに引き上げを行ってください。



【ダリア】：平成１９年から本格的に栽培が始まり、県では国内有数のダリア育種家と連携して育成した県オリジナル品種「NAMA H A G Eダリア」を主体に生産振興を進めてきた結果、栽培面積及び戸数ともに全国一位となっています。

■生育が旺盛になる時期です。ネットを引き上げて曲がらないようにしてください。下段のネットは地面から２０～３０ｃｍの位置まで上げたら固定し、上段のネットは生育に応じ適宜引き上げ、通路にはみ出てくる新芽は軟らかいうちにネットの中に入れてください。

■豪雨などで排水不良になりやすい圃場は、あらかじめ明渠を掘るなど気象災害に万全な対策や準備をしてください。



◆各品種とも、うどんこ病やダニ、スリップス、アブラムシ等の病害虫が多く発生する時期です。適宜に防除を行いましょう◆

◎品種ごとの詳細については、各産地の栽培暦や技術情報を順守してください



農業用ドローンによる水稻種子散播実演会

ＪＡ全農あきたはは5月6日、ＪＡ秋田おぼこおよび生産者、株式会社丸山製作所の協力のもと大仙市で「農業用ドローンによる水稻種子散播実演会」を行い、県内の生産者やＪＡ担当者が参加しました。近年、生産現場で導入が進む農業用ドローンの使用は除草剤や殺菌殺虫剤の農薬散布がメインとなっていますが、水稻種子散播のニーズも潜在的に存在しています。しかし、水稻種子散播はオペレーターの熟練度によって吐出量の調整や均一散布への影響が大きいことが課題となっています。そこで、今回の実演会では目標収量が得られる好適な散播条件を確認するために実施されました。



実演会では50aの圃場に、ＤＪＩ社製ドローン「Ｔ３０」を用いて、業務用多収品種「ゆみあずさ」のべんがらモリブデンコーティング種子を10aあたり約5kg散播し、散播にかかる時間や均一に散播されているかなどを確認しました。



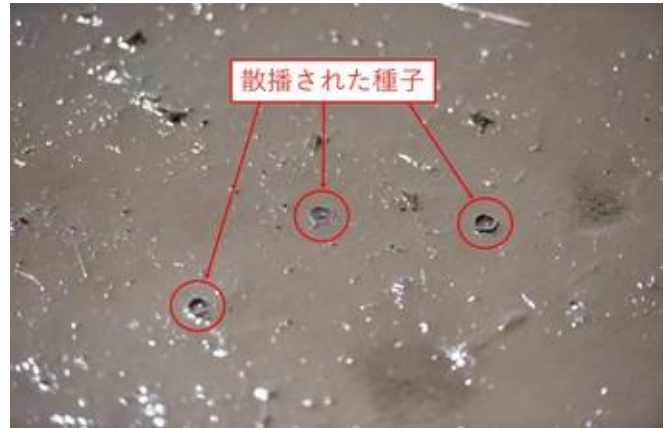
べんがらモリブデンコーティングした「ゆみあずさ」の種子



種子をドローンに投入



種子散播実演



散播後の圃場

ＪＡ全農あきたの担当者は「ドローンを用いた水稻種子散播を生産者に見てもらうのは初めてなのでよい機会となった」と話しました。今後は水稻の生育状況や収量について調査をするほか、７月にはドローンを用いた追肥実演会を行う予定です。

「令和４年度ＪＡ園芸担当部課長会議」を開催！



ＪＡ全農あきたは、５月１８日に「令和４年度ＪＡ園芸担当部課長会議」を開催し、県内ＪＡの担当部課長、秋田県、物流関係者など３６名が出席しました。会議では令和４年度の生産販売に関する基本方針や持続可能な物流体制構築への取り組みなどについて報告と協議を行いました。ＪＡ全農あきた園芸課の担当者は「長期化しているコロナ禍により生活様式や消費形態などが変化しているが、これに対応し農家手取りの最大化に向けて『オール秋田』体制で取り組んでいきたい」と話しました。ＪＡ全農あきたは今後もＪＡや県と連携し、秋田県産青果物の生産振興と販売促進に努めてまいります。

「無煙炭化器」の実演会を開催



環境に配慮した「無煙炭化器」の実演会が4月28日、ＪＡ秋田ふるさと管内の藤井果樹園（横手市赤坂）で行われました。この実演会は、ＪＡ秋田ふるさとりんご部会青年部がＳＤＧｓの取り組みとして開いたもので、りんごの剪定で出た不要な枝を「無煙炭化器」を用いて燃やし、炭化するまでの実演が行われました。

実演に用いたモキ製作所の「無煙炭化器」は、対流燃焼により煙の発生を少なくすることや、生成した炭は土壌改良材や融雪剤として使用することができるため、環境にやさしくＳＤＧｓへの取り組みとして大きく期待されています。



ＪＡ秋田ふるさとりんご部会青年部の齋藤雅樹副部長は「自分の園地で出たものを自分の園地で再利用することは効率的である。この実演会がＳＤＧｓを考えるきっかけになれば良い」と話しました。また、藤井果樹園の藤井克徳氏は「今の時代に合った新しい技術や環境に配慮した技術を発信していきたい。若手農家として農業界のさらなる発展に貢献したい」と話しました。ＪＡ全農あきたは今後も、ＪＡや関係機関と連携し持続可能な農業づくりに向けたＳＤＧｓへの取り組みに努めてまいります。

ザルビオフィールドマネージャーを活用した可変施肥実証

J A全農あきたはヤンマーアグリジャパン株式会社とともに、ザルビオフィールドマネージャー（以下、ザルビオF M）を活用した可変施肥実証を行いました。

この実証試験は、ザルビオF Mとヤンマーアグリジャパン株式会社の可変施肥に対応した直進アシスト機能付き田植機とのデータ連携によって可能となる基肥の可変施肥により、生育の均一化、収量の安定化などの効果の検証を目的としています。

田植えは、5月11日に「ファームQ」（潟上市）の圃場約1 h aで、5月18日に「はたやファーム」（秋田市）の圃場約9 0 aで行われました。



ザルビオF Mで作成した可変施肥マップをU S Bで田植機に読み込ませ、肥料の排出用を確認して事前準備が完了。田植え機は可変施肥マップにもとづき施肥量を自動でコントロールしながら田植えが行われました。また、大幅な低コスト化・労力軽減が期待される密苗で移植を実施しました。

ヤンマーアグリジャパン株式会社の可変施肥に対応した直進アシスト機能付き田植機は、運転席の手元にあるタッチパネルで操作ができるほか、リアルタイムに施肥量を確認することもできます。そして、直進アシスト機能によって労力軽減につながります。



【事前準備】可変施肥マップを田植機に読み込ませる



実証に用いた「密苗」



施肥量をリアルタイムに確認



直進アシスト機能で自動運転

今後、実証圃場の生育調査、収量調査などをおこない、可変施肥の効果を検証していきます。

*ザルビオフィールドマネージャーとは

各圃場の土壌や作物の品種特性、気象情報、人工衛星からの画像をAIが解析して、作物の生育や病害・雑草の発生を予測、最適な防除時期や収穫時期等を提案する栽培管理システム。JA全農が2021年4月1日より日本国内へのサービス提供を開始。

秋田大学学生支援としての県産農畜産物贈呈式



ＪＡ全農あきたは、新型コロナウイルスの影響で経済的に困窮する学生にバランスの良い食事を食べてもらおうと、秋田大学に県産農畜産物を贈呈しました。

今回贈呈した食材は精米２７０ｋｇ、豚肉１３５ｋｇ、アスパラガス４０ｋｇ、ニラ４ｋｇで、大学内の食堂で「１００円定食」や「ＪＡ全農あきた協賛特別メニュー」として提供されます。

５月２５日に行った贈呈式でＪＡ全農あきた小林和久県本部長は「学業に励む源としておいしい県産食材を食べ、健康でみのある学生生活を過ごしてほしい」と話し、秋田大学の学長へ目録を渡しました。

また、秋田大学からＪＡ全農あきたへ感謝状が贈られ、秋田大学の山本文雄学長より「学生にとって大きな助けとなる」と感謝の言葉をいただきました。

同日には食堂を利用する学生先着３００人に、牛乳を５０％以上使用した「全農オリジナルミルクティー」のプレゼントも行いました。ＪＡ全農あきたは秋田県農業を支える団体として「食」で学生のみなさんを応援しています。



第33回 秋田県 JA農業機械 大展示会

この展示会は感染症対策を行っております



新型コロナウイルス感染症対策のため
ご理解とご協力をお願い致します

ご入場の際は検温とチェックシートのご協力をお願い致します

バス動員は行いません

食事の提供は致しません

飲み物は所定の場所をお願い致します

ご来場推奨日一覧

※来場日については新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、
来場者数を分散させる取り組みを行います。

このことから、各JA2日間を来場推奨日として設定させていただきます。
なお、日程に都合がつかない場合は、推奨日以外の来場も可能です。
主旨にご理解ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

JA名	6月15日(水)	6月16日(木)	6月17日(金)
かづの		○	○
あきた北	○	○	
秋田たかのす	○		○
あきた白神	○	○	
秋田やまもと		○	○
あきた湖東	○		○
秋田なまはげ	○	○	
大湯村	○		○
秋田しんせい	○	○	
秋田おばこ		○	○
秋田ふるさと	○	○	
こまち		○	○

3年ぶりの開催!!
2022年 6月

15日(水)

9:00~15:45

16日(木)

9:00~15:45

17日(金)

9:00~15:45

会場/秋田市向浜 秋田県立スケート場

主催/JA・JA全農あきた 共催/JA秋田中央会 後援/秋田県

第33代ミス・フレッシュ秋田県産青果物キャンペーンガール決定！



第33代ミス・フレッシュ秋田県産青果物キャンペーンガール（ミス・フレッシュ秋田）が決定し、5月30日に秋田市で委嘱状交付式が行われました。

ミス・フレッシュ秋田は、秋田県産青果物の販売促進とPRのため、県やJA・JA全農あきたなどで構成する「あきた園芸戦略対策協議会」が募集し、今年で33代目となります。

笑顔がさわやかな2人は今年1年間、秋田県産青果物の魅力を県内外で元気にPRしていきます。どうぞよろしくお願いします。

Za・あぐりふおーむ
Zennoh-akita agriculture+reform

JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふおーむ
第28号 令和4年6月6日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒010-8558秋田市八橋南2丁目10番16号 018-864-2462